

第3章 調査結果のまとめ

1 子どもと家族の状況について

子どもの人数については、就学前では「2人」と「1人」で約8割、小学生では「2人」と「3人」で約8割を占めて多くなっています。

主に子育てをしている人については、就学前では「主に母親」が51.0%で最も多く、小学生では「父母ともに」が54.0%で最も多くなっています。就学前では母親中心の意識が、小学生では両親ともに、という意識が強いことがうかがえます。

2 子どもの育ちをめぐる環境について

就学前では、子育てに日常的に関わっている方（施設）について「父母ともに」が55.6%で最も多いことから、両親ともに子育てに関わっている家庭が多いことがわかります。

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、就学前、小学生ともに「いない」が約1割であり、9割以上が「いる」と回答しています。その中でも、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多くなっています。また、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」は、就学前では12.0%ですが、小学生では24.3%で、小学生になると友人・知人の手助けを得ている家庭も多くなっています。

子育ての相談先については、就学前、小学生ともに「ある」が9割を超えて多くなっています。相談先についても、就学前、小学生ともに「配偶者（夫又は妻）」、「父母（子どもの祖父母）」、「友人や知人」が上位となっています。

3 保護者の就労状況などについて

母親の就労状況については、就学前では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が44.6%で最も多く、「フルタイム」や「パート・アルバイト等」などを含めて、就労している母親は約5割です。一方、小学生では「パート・アルバイト等」が50.2%で最も多く、「フルタイム」等を含めて就労している母親は約7割を占めて多くなっています。

就労日数については、就学前、小学生ともに、「5日」が最も多くなっていますが、小学生では「パート・アルバイト等」の割合が多いことから、「4日」も28.3%で比較的多くなっています。

就労時間についても、就学前、小学生ともに「8時間」が最も多くなっていますが、次いで、

小学生では「5時間」も多くなっています。

家を出る時刻については、就学前、小学生ともに「8時台」が最も多く、次いで「7時台」が多くなっています。帰宅時刻については、就学前は「18時台」が最も多くなっていますが、小学生では「15時台」と「18時台」が多くなっています。

出勤から帰宅までの時間帯別の不在状況については、就学前、小学生ともに「9時台」から約9割となっています。帰宅者が多くなる「17時台」になると、就学前は50.7%ですが、小学生では31.0%に減少しています。

父親の就労状況については、就学前、小学生ともに「フルタイム」が9割以上を占めています。

就労日数については、就学前、小学生ともに「5日」が最も多く、次いで「6日」が多くなっています。就労時間についても、就学前、小学生ともに、「8時間」と「10時間以上」が多くなっています。

家を出る時刻と帰宅時刻については、就学前、小学生ともに同様な傾向となっています。まず家を出る時刻については、「7時台」が最も多く、次いで「6時台」が多くなっており、帰宅時刻については、「19時台」から「21時台」が多くなっています。出勤から帰宅までの時間帯別の不在状況については、「8時台」から「17時台」では約9割または9割台となっています。帰宅者が多くなる「19時台」から「21時台」は、「19時台」の約6割から時間ごとに20ポイント程度段階的に減少し、「21時台」では約2割になっています。

就学前では働いている母親が半分程度であったのに対し、小学生になると、パート・アルバイト等で働く母親が約7割と増え、母親の多くが働いている状況です。母親は子どもの年齢によって就労の状況が大きく変化していますが、父親は、子どもの年齢によって状況は変化していないことがわかります。

パート・アルバイト等で就労している母親の就労形態の転換希望については、就学前、小学生ともに「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が最も多く、特に小学生では6割以上を占めています。

また、現在、就労していない母親の今後の就労意向については、就学前では「1年より先、一番下の子どもが〔〕歳になったところに就労したい」が58.1%で最も多く、一番下の子どもが「3～4歳」になったら就労したいという割合が多くなっています。一方、小学生では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が35.3%で最も多く、小学生の母親の就労意向が高いことがうかがえます。

『すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい』とした人は、就学前、小学生ともに「パートタイム、アルバイト等」の希望が多くなっています。

4 平日の保育園や幼稚園などの利用について

就学前において、保育園や幼稚園等の定期的な利用については、「幼稚園」が36.0%が最も多く、次いで「保育園（認可保育所）」が22.0%となっています。

週あたりの利用日数については、『幼稚園』、『保育園』など全体的に「5日」が多くなっています。

『幼稚園』では、現在、一日「5時間」や「6時間」の利用が多くなっていますが、希望では、「6時間」や「7時間」が多くなっています。利用している時間帯は、現在は「9時台」から「14時台」までが多くなっていますが、希望では、「8時台」または「9時台」から「15時台」、「16時台」までが多くなっています。『幼稚園』では現在の利用状況より長い利用を希望する傾向がみられます。

今後の、保育園や幼稚園等の定期的な利用意向については、「幼稚園」が58.9%で最も多く、次いで「幼稚園の預かり保育」が33.9%、「保育園（認可保育所）」が33.4%となっています。また、「認定こども園」は11.4%、「ファミリー・サポート・センター」は7.5%で、現在の利用割合より多い希望となっています。

幼稚園または幼稚園の預かり保育を希望し、他の保育サービスより幼稚園の利用を強く希望する人は59.8%と幼稚園のニーズが高いことがうかがえます。

さらに、保育園や幼稚園等を選ぶ際に重視する点については、「自宅に近い」が57.7%で最も多く、身近な地域にある施設を選びたいという意識がみられます。

5 地域の子育て支援事業の利用状況について

子育て支援センターや児童館などの地域子育て支援拠点事業の利用状況については、就学前では、「利用している」が50.2%となっています。利用回数については、1か月あたり「1回」が38.5%で最も多くなっています。

今後の利用意向については、「利用していないが、今後利用したい」が24.4%で、1か月あたり「1回」もしくは「2回」利用したいという割合が多くなっています。また、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は20.4%で、今後更に月「4回」増やして利用したいという割合が多くなっています。

一方、地域子育て支援拠点事業を利用していない理由については、「時間がない」が52.9%で最も多く、「特に理由はない」は30.6%となっています。

小学生では、児童館を「よく利用している」が2.5%、「ときどき利用している」が35.1%で、利用している割合は約4割となっています。児童館について改善・充実してほしいことは、「魅力的な事業やイベントを開催してほしい」が26.0%で最も多く、次いで「高学年向けの事業を

充実してほしい」が17.7%となっています。小学生も楽しめる内容の充実が求められています。

6 土曜・休日等の保育園や幼稚園などの利用について

土曜日の保育園や幼稚園等の利用希望については、「利用する必要がない」が71.5%と最も多く、「ほぼ毎週利用したい」が5.5%、「月に1～2回は利用したい」が21.3%となっています。利用したい時間帯については、開始時刻は「8時台」または「9時台」が多く、終了時刻については「18時台」が多くなっています。

日曜日・祝日については、「利用する必要はない」が85.2%で最も多く、「ほぼ毎週利用したい」が1.5%、「月に1～2回は利用したい」が11.2%で、土曜日の希望よりは少ないものの、約1割の利用希望があります。利用したい時間帯については、開始時刻は「8時台」が多く、終了時刻は「18時台」が多くなっています。

土曜日や日曜日・祝日に、月に数回保育園や幼稚園等を利用したい理由については、「月に数回仕事が入るため」が63.1%で最も多くなっています。

幼稚園を利用されている方の夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の利用意向については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が20.5%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が49.2%となっています。利用したい時間帯については、開始時刻は「9時台」が多く、終了時刻は「15時台」が多くなっています。

夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中に週数日幼稚園を利用したい理由については、「週に数回仕事が入るため」が42.5%で多くっており、幼稚園の預かり保育の需要が高いことがうかがえます。

7 子どもの病気の際の対応について

子どもが病気等で保育園や幼稚園等を休んだことについては、「あった」が48.7%となっています。小学生では、学校を休んだことについては「あった」が64.7%となっています。

子どもが休んだ場合の対処方法については、就学前、小学生ともに「母親が休んだ」が最も多くなっています。「母親が休んだ」平均日数は、就学前では7.7日、小学生では4.2日となっています。

子どもが休んだ合計日数は、就学前では「10日以上」が43.7%で多く、一方、小学生では「1日」や「2日」などが多く、3日以内で約5割を占めています。

就学前では、父親または母親が休んだ人の44.6%が、病児・病後児保育を「できれば利用したい」としています。利用したい日数については、「10日以上」が34.6%、「5日」が31.7%となっています。病児・病後児保育の望ましい事業形態については、「幼稚園・保育園等に併設

した施設で子どもを保育する事業」と「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が多くなっています。

一方、病児・病後児保育を利用したいと思わなかった理由については、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が59.5%で最も多く、次いで「親が仕事を休んで対応する」が54.0%となっています。

また、子どもが病気等の際に仕事を休んで看ることが非常に難しい理由については、「子どもの看護を理由に休みがとれない」が多くなっています。

8 子どもの一時預かりなどについて

就学前の一時預かりの利用状況については、「幼稚園の預かり保育」が16.0%と最も多くなっています。平均利用日数については、「幼稚園の預かり保育」が15.2日、「保育園の一時預かり」が31.9日となっています。年間の合計日数については、「3～5日」が29.9%で最も多く、次いで「15日以上」が21.6%、「1～2日」が20.9%となっています。

一時預かりを利用していない理由については、「特に利用する必要がない」が70.0%で最も多く、次いで「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が17.4%、「利用料がかかる・高い」が15.6%となっています。

一時預かりの利用希望については、「利用したい」が56.7%となっており、利用目的については、「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的」が65.3%で最も多く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、保護者の病気」が59.8%、「不定期の就労」が24.3%となっています。希望日数の平均については、「私用（買物、習い事等）、リフレッシュ目的」で10.4日、「冠婚葬祭、学校行事、保護者の病気」で7.3日、「不定期の就労」で33.7日となっています。

小学生では、ファミリー・サポート・センターの利用については、「利用した・利用している」が1.0%となっています。しかし、今後の利用意向については、「利用したい」が15.1%と多くなっています。ファミリー・サポート・センターについて改善・充実してほしいことは、「利用方法をわかりやすくしてほしい」が28.3%で最も多く、次いで「事業内容をもっとPRしてほしい」が27.8%、「利用の手続きを簡単にしてほしい」が17.9%となっています。

子どもを泊りがけで家族以外に預けなければならなかったことが「あった」のは、就学前で14.2%、小学生で8.8%となっています。

その際の対処方法については、就学前、小学生ともに「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が最も多くなっています。平均泊数は、「（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」が、就学前で5.0泊、小学生で6.1泊となっています。

9 小学校就学後の放課後の過ごし方について

平日の放課後の過ごし方については、就学前の5歳以上の希望では、「自宅」が52.4%、「学童保育所（放課後児童クラブ）」が43.4%、「習い事・学習塾」が32.3%となっています。

小学生では、現在は、「自宅」が80.0%、「習い事・学習塾」が59.6%、「学童保育所（放課後児童クラブ）」が18.5%となっており、来年度については、「自宅」が71.7%、「習い事・学習塾」が56.5%、「学童保育所（放課後児童クラブ）」が21.7%となっています。

学童保育所の平日の利用意向日数については、「5日」が、就学前では74.4%、小学生の来年度の希望では65.9%で、「5日」利用したいという希望が多くなっています。また、学童保育所を利用したい時間帯の終了時刻については、就学前、小学生ともに「18時台」が最も多くなっています。

土曜日の学童保育所の利用希望については、就学前では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が30.5%、「高学年（4～6年生）まで利用したい」が9.8%となっています。小学生では、土曜日の利用希望は5.9%となっています。利用したい時間帯については、就学前、小学生ともに「8時台」から「17時台」、「18時台」、「19時台」までが多くなっています。

日曜日・祝日の学童保育所の利用希望については、就学前では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が12.2%、「高学年（4～6年生）まで利用したい」が8.5%となっています。小学生では、日曜日・祝日の利用希望は3.5%となっています。利用したい時間帯については、就学前、小学生ともに「8時台」から「18時台」と「19時台」までが多くなっています。

夏休み・冬休みなどの長期休暇中の学童保育所の利用希望については、就学前では「低学年（1～3年生）の間は利用したい」が31.7%、「高学年（4～6年生）まで利用したい」が26.5%となっています。小学生では、夏休み・冬休みなどの長期休暇中の利用希望は35.2%となっています。利用したい時間帯については、就学前、小学生ともに「8時台」から「18時台」までが多くなっています。

10 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

就学前では、育児休業を「取得した（取得中である）」という『母親』が36.1%であるのに対し、『父親』は2.8%にとどまっています。

『父親』が育児休業を取得していない理由については、「仕事が忙しかった」、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が多くなっています。

『母親』が育児休業を取得した後、職場に復帰したかについては、「育児休業取得後、職場に復帰した」が71.4%で、タイミングについては、「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が57.6%となっています。

育児休業の実際の取得期間については、『母親』では、「7か月～1歳」が47.1%で最も多く、

次いで「1歳1か月～1歳6か月」が29.1%となっています。『父親』では、「1～6か月」が58.8%で、母親より短い期間であることがうかがえます。

育児休業の希望の取得期間については、『母親』では、「7か月～1歳」が34.9%で最も多く、次いで「1歳1か月～1歳6か月」が27.9%となっています。

『母親』が育児休業から希望より早く復帰した理由については、「希望する保育園に入園するため」が多く、遅く復帰した理由については、「希望する保育園に入れなかったため」が多くなっていることから、保育園の入所が復帰の時期を左右していることがうかがえます。

『母親』が職場復帰時に短時間勤務制度を「利用した」のは62.2%となっています。また、利用しなかった理由については、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」や「短時間勤務にすると給与が減額される」が多くなっています。

現在育児休業中で、子どもが1歳になるまで育休を取得したい『母親』は、89.6%で多くなっています。

11 児童虐待に関することについて

児童虐待について、就学前、小学生ともに「子どもを長時間放置したり、食事や身なりの世話をしないことは、児童虐待になる」、「暴力をふるって子どもの身体を傷つけることは、児童虐待になる」、「子どもをわいせつな行為の対象とすることは、児童虐待になる」の3項目については9割以上が知っているとしています。

児童虐待を発見した場合の通報する先については、就学前、小学生ともに「児童相談所」が最も多く、次いで「警察署」をあげています。一方、「どこに通報してよいかわからない」は、就学前で14.5%、小学生で16.4%となっています。

12 子育て全般について

日ごろ不安に思っていることについては、就学前、小学生ともに「子どもの教育（学力、しつけ）に不安がある」が約4割で最も多くなっています。次いで、就学前では「子どもを叱りすぎているような気がする」が25.2%、小学生では「子育てにかかる経済的な負担が大きい」が28.3%となっています。

子育てを楽しんでいるかについては、就学前、小学生ともに「楽しいと感じることの方が多し」が半数を超えて多くなっています。

白岡市の子育て支援の満足度については、5点満点で「3点」から「5点」が、就学前、小学生ともに7割から8割となっており、評価は概ね良好となっています。

充実を望む子育て支援策については、就学前、小学生ともに「公園や遊び場など地域におけ

る子どもの居場所の充実」が約5割で最も多く、次いで、就学前では「保育園（所）や幼稚園にかかる費用負担の軽減」が38.4%、小学生では「子育てに関する経済的支援の充実」が38.6%となっています。また小学生では「犯罪や事故から子どもを守るための取り組みの充実」が34.3%で3番目に上がっています。公園や遊び場の整備、子育てに関する経済的支援、登下校等の安全や防犯・見守りに対する要望が多くなっています。